

「婦人たちはイエスの言葉を思い出した」

(ルカによる福音書 24:1-10)

今わたしたちが道端へ出て行って、「主はご復活された！」と宣言したところで、どれだけの人が信じるでしょうか。「復活だって？」と鼻で笑われるかもしれません。わたしたちは今日の福音で最初の宣教者の姿を見ました。それは、マグダラのマリア、ヨハナ、ヤコブの母マリア、そして他の婦人たちです。ルターは彼女たちが「十一人と他の人皆に一部始終を知らせた。」という「知らせた」を「宣教した」と翻訳しています。彼女たちが使徒たちに宣教したから、わたしたちに今も主イエスのご復活の福音が届けられているのです。宣教とは、彼女たち自身が経験した、復活を証しすることです。二人の天の使いは彼女たちに言いました。「ガリラヤでイエスさまが言われたことを思い出さない。」主イエスの言葉を思い出した婦人たちは、「そうだ、あのお言葉は本当だったんだ。イエス様は三日目に復活するって言っていたではないか！」彼女たちが伝えたのは、その「本当だ！」という思いです。この思いによって、言うなれば、彼女たちも復活したのです。絶望のなか、せめて遺体に香油を塗ることだけしかできなかった彼女たちが、復活を証しするものへとまったく変えられた。まさに彼女たち自身が復活の命に与ったのです。この自分自身に起こった復活を伝えることこそ宣教です。

はじめの宣教者となった彼女たちのように、わたしたちもみ言葉が真実であることをこの身を持って知ろうではありませんか。主イエスの復活。それは絶望の先に必ず希望があることをわたしたちに約束する出来事です。もう駄目だ、の先がある。婦人たちがそうであったように、絶望の中で、主イエスのみ言葉を思い出すなら、わたしたちも婦人たちと同じ復活の命をいただくことができます。主イエスはまことに復活されました。死も、絶望も、どんなに強力な悪の力も神に勝つことはできません。心からお祝いしましょう。イースターおめでとうございます。